「令和８年度　西濃圏域地域支援研修会」　８月４日（火）１０：００～１２：００
「児童生徒の自立を支えるためのキャリア教育―本人にとっての学びの意味付けを図るための振り返りと対話―」という演題で、弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻　教授 菊地一文氏から講話をいただきました。
さらに 京都市立東山総合支援学校 指導教諭 小木曽恵美子氏 と 本校 研究主事 田中智樹氏 から実践報告を伺いました。
受講された先生方から「何年も前からキャリア教育について毎年のように研修を積んできましたが今一つ腑に落ちない状態でしたが、今日はよく理解できました。」「対話する大切さと対話力を極めていきたいと感じた。」「好きを育み、得意を伸ばすとおっしゃられた言葉が印象的で、子ども自身の「好き」を早く見つけ出して、育てていきたいと感じました。」かなり具体的なお話だったので子どもたちに今後指導したり、保護者に話をしたりする上でたいへん参考になりました。生徒の対話が一番大切であることが改めて確認できた有意義な研修でした。夏休み明け、生徒との対話を通して、夏休み中の体験を意味付けして可視化し、生徒のキャリア発達につなげていけるように努力していきたい。」等の感想がありました。

「西濃圏域がやがやのびのび相談会」　８月２０日（水）９：００～１１：００
岐阜県下の小・中学校の特別支援学級や通級教室を担当している先生方や西濃圏域特別支援学校のコーディネーターの先生が集まり、座談会を行いました。それぞれが日頃抱えている悩みや望ましい教育の場等についてなどを話していただき、大変有意義な会になりました。
来年度は、プチ学習会も計画に盛り込みながら、実施を予定しています。
ぜひ、関係の皆様にはご参加していただきたいと思います。

「西濃圏域発達障害者支援センター　ひまわりの花」と本校共催「公開講座」

８月２０日（水）１３：３０～１５：３０

「叱らないけど譲らない支援―発達障がいや不登校の子どもを対象に―」という演題で、和歌山大学　名誉教授　菊地一文氏から講話をいただきました。

受講された先生方から「児童と約束してもいざその時になるとやらないという時に、それを受け入れて良いのか迷っていました。でも、嘘をついたわけではないということを聞いて、受け入れ共感し、提案・交渉していきたいなと思いました。」「学校現場ではまだまだ子どもたちの注目行動が「わがまま、自分勝手」と受け取られていると感じる場面を目にすることがあります。教員の思い、保護者の思いにズレが生じ、関係が拗れてしまうケースもあります。」「一つのことが不安になると全部ダメなことがある」それについての支援が一番心に残りました。支援者側もそう感じがちですが、「どうしたらできるかな」という視点が子どもたちの可能性を潰さず、成長するきっかけとなるのだと思いました。私自身もそのような視点で夏休み後子どもたちと関わっていきたいと思いました。」「提案交渉型アプローチという方法に感動しました。大人が一方的に進めることがどうしても多い中、子どもが主体的に選択できるようにする指導や支援を大切にすることが子ども主体であり、子どもが大切にされていると実感できることにつながっていくことである。繰り返すことで自尊感情や自己効力感を高めることとなり、褒めることが何よりも大切であることも学ぶことができました。」等の感想がありました。